## ごの人に聞く!

『一流の中小企業』を企業の目標として掲げ、「障害 者雇用と支援1、「子育で応援宣言1、「地域の美化活動1、 等で感謝状や表彰を受けるなど様々な取り組みを続ける 拓新産業(株)。

そのような活動を行いながらも「年次有給休暇の完全 消化」を推奨し、有給休暇の完全消化はほぼ100%であ り、過去に新聞にも掲載さている。そこにはどのような きっかけがあり、どのような効果が表れるのだろうか? 今回は藤河代表取締役と社員の方にお話を伺いました。

## プロフィール・

S.21年2月 福岡市中央区大名町に生まれる。現在64歳

S.43年3月 福岡大学卒業 S.52年4月 拓新産業株式会社を設立

却中

厳しい経営環境の中で、社員の雇用を守ることを最優先に、財務中心 の成長より、健全性を重視した経営を行っています。

(社)仮設工業会 第2種正会員 拓新産業株式会社 代表取締役 藤河 次宏



-貴社では、以前から週休2日制の実施や有給休暇取得の促進等を行っておられるとお聞きして いますが、そのきっかけとなったものは何ですか。またどんな取り組みをされていますか。

22年前から、それまでの中途採用から新卒採用に切り替えたことがきっかけです。それ以来、 今日まで新卒採用を22年間から継続しておりますが、22年前は採用難で、なかなか大学生を採用 することは難しかった環境でした。

大学生と面談したり、大学訪問していく中で感じたことは、職場環境を改善しなくては、特に 中小企業では、働きやすい職場、楽しい職場作りを心掛けなくては、優秀な人材は集まらないこ とを新卒採用活動を通じて自覚させられました。そこで、まず「職場環境の改善」から、本気で 取り組むことにしました。

そこで、法令遵守の立場から就業規則はきちん と守ることから始めました。就業規則の本を購入 し、労働基準法の勉強からはじめ、就業規則を改 善しました。とくに、休日消化には徹底して取り 組むことにしました。完全週休二日制、有給休暇 の完全消化、ノー残業の積極的な促進に取り組ん でいきました。お陰様で今では、毎年数名の採用 に、数百人の学生が会社訪問するようになりまし た。



社内研修

休みが多くなると社長さんとして会社の業績等、心配の部分もあるかと思います。そうなる と社員の意欲を高めることも大切なことと思いますが、そのために何か取り組んでおられる ことがありますか。

昔から「企業は人なり」と言われています。社員を大事にすれば、社員も応えてくれます。意

欲が高まることはもちろんですが、当社の方針である「ローコスト経営」を凡事徹底してくれれ ば健全な利益は確保できます。また、時間内に、効率的に業務を終わらせる習慣を徹底させるこ とにより、休日出勤や残業をなくしていけば、割り増しな人件費も必要ありません。労働は時間 (量) よりも効率的な作業(質) だと考えています。

また、当社の基本方針では、まず安全が第一ですから、顧客からの無理な要望には応えられな いと、はっきりとした姿勢を示しています。その反面、仕事を失う危険性もあります。しかし、 事故が起きてからでは会社も、社員も、そしてお客様にも不利益がかかってきます。

## ―今後の抱負やその他取り組まれていることがあればお聞かせ下さい。

社内にはいろんな委員会がありますが、その中でもサークル委員会は、年間十数回のサークル 企画を立案し、運営しています。バレー、バスケ、バドミントン、卓球、フットサル、スノボー、 ドッジボール、ボーリング、ソフトボール、バスハイク、魚釣り大会、地引き網大会など毎年盛 りだくさんの自主的な企画提案により、社内の良いコミュニケーションに貢献してくれています。

当社の地域貢献活動の中心は継続的な障害者雇用です。できるだけ養護学校の実習を受け入れ、 可能な限り雇用に結びつけています。なぜなら、雇用は企業しかできないからです。「保護より、 働く機会を」を原点にしています。もう一つは、15年前から毎年続けています「地域社会福祉活 動振興基金」への寄付による地域支援です。



学生の頃、漠然と「社会人になったら帰省するのは難しい」と思い、お正月や夏休みには許される限り 帰省していました。私の実家は帰るための移動だけで半日はかかる所にあります。しかし拓新産業に入社 し、私の予想は外れました。夏も冬も有休を取り、のんびり実家を味わっています。しかも日数的にも余 裕があるので家族で過ごすだけでなく、中学校・高校の友人とも会うことができ、良い刺激を受けていま

また、これから先、女性として結婚をし、子供を持つ親になることを考えても不安を感じることはあり ません。拓新産業で働く女性のほぼ半数が結婚をし、子供を持っても普通に仕事をこなしている姿を目に しているからです。もちろん、保育園からの急な呼び出しの電話等がかかってくることもありますが、誰 一人嫌な顔をすることなく送り出しています。

有休を取得したり子育てをしながら働くことが社内で「普通」になっている、そのことが私たちを働き やすくしてくれているのだと思います。

総務部 猪山